

## ながみねファミリーセンター30周年によせて

光永 尚生

熊本YMCAながみねファミリーセンター30周年おめでとうございます。この長きにわたり、ながみねファミリーセンターを通して、地域への奉仕をされてきました多くの皆様に対して心からの敬意と感謝を申し上げます。



私は、ながみねファミリーセンターの前身である、ながみねセンターが開館した30年前の年に、熊本YMCAに入職いたしました。私は、26才での中途採用で、今のみなみYMCAの前身である、熊本YMCA南部センターのウェルネスと学習担当者として関わりが始めました。

当時は、健康教育部という呼び方と少年学習教育部という部署名でしたが、所謂、兼務をしておりました。当時の館長は、御船スポーツセンターの寺岡さん、同僚先輩は、岡総主事、はがさん、中島修子さんなど錚々たる顔ぶれでした。今思えば、大学卒業後3年のブランクがあった自分が現場のスキルを磨いたのは、寺岡さんから水泳やランニング、スケート理論、岡さんからは体操の理論と実践やスケートの実践、はがさん、中島修子さんからは水泳のスキルと理論、YMCAワッペンなどの理論を学ばせていただいたおかげです。その他、先輩方から吸収した内容は、枚挙にいとまがありません。人生を豊かにしていただき、本当に感謝に堪えません。

ながみねセンターの開館の時の思い出は、4月のある日の夜の22:00に、近隣に設置されていた開設準備室に集合したことです。つまり、夜中にポスターを設置することが、新人である私たちの業務であったわけです。昨今のプレミアムフライデーなどと比較しようもない時間帯です。しかし、新人の4月から、新規オープンする7月までの毎晩のように繰り返される準備の苦労は、今でも最高の思い出の一つですし、どういうわけか、笑顔が思い浮かびます。当時の、熊本YMCAは、ふたつめのプール開設に向け、多くのボランティアとスタッフが、共に夢を語り、夢を実践していた時期なのではないかと思えます。その後、ながみねYMCAの開館となり、今の30周年への足跡がスタートするわけです。

1999年に、米国研修でフロストバレーYMCAに行かせていただき、その後ながみねYMCAの館長を拝命いたしました。フロストバレーYMCAで学んできた多くのことを、ながみねわんぱく大学、リバティードルフィンズなどの活動、とりわけ野外活動で実践してきたことは感謝でした。2003年には、館長の業務のさ中でしたが、3か月の米国研修に派遣していただきました。出発の朝、熊本空港の見送りデッキで、ながみねセンターの皆さんが、朝早くから大勢で横断幕で見送ってくださり、飛行機から、「おみや

げは、笑顔でいいよお父さん」の文字が見えたときの感動は、今も忘れません。ちょうど、そのころは、米国 YMCA への派遣研修も多く交流がありました。現在の、ながみねファミリーセンターのファミリーという発想は、米国のファミリーYMCA から由来しています。特に、熊本 YMCA と交流していたモンタナのヘレナファミリーYMCA や、はがさんが派遣された、西海岸の YMCA の影響が大きく、現在のながみねファミリーセンターの増築された玄関部分は、その当時の米国の西海岸にある YMCA の前にはがさんがモデルとして立っていらっしやる角度をデフォルメして、常議員会で、3つのパターンから選ばれたものが原点です。カラーは変化しましたが、その角度、コンセプトなどは今に活かされているわけです。当時の熊本 YMCA としては、ファミリーセンターという新しい価値にチャレンジしたわけです。

また、ながみねファミリーセンターでは、「花を愛でる心 ~玄関の花いっぱい運動~」は、今も伝統として続いていると感じています。これは、CD 運動へと受け継がれていったようにも感じます。皆さんがご存知のように、我が家のように、1年を通して、花が出迎えてくださいます。私は、2003年の9月30日に米国研修から帰国したのですが、10月1月付けで、当時の南部センターとみなみYMCA 開設準備室へ異動となりました。帰国後に、ながみねファミリーセンターには戻らず、直接南部センターへ行きましたので、ながみねファミリーセンターには、帰国してから数週間後に伺いました。当時の職員の皆さんや委員の皆さんから恨み節をお聞きしたことを懐かしく思い出します。また、南部センターの皆さんには、ハワイのホノルルYMCA、キャンプ ERDMAN からの T シャツのお土産が、ながみねファミリーの全員に届いたのに、南部センターには何のお土産もなかったのも、こちらからの恨み節も聞こえてきたことは、今となっては笑い話でしょうか。T シャツには、当時の米国ホノルルYMCA の夏のテーマである「Catch the Wave」と書いてありました。しばらくは、ながみねファミリーセンターの皆さんは、黄色のお揃いでした。

そのような中で、私の一番の思い出というか、職員の皆さんと苦楽を共にしたのは、「工事への対応」でした。通常のクラスを行いながら、1回目の改修を行い、事務所の裏には廊下を創り、玄関は狭い通路で、本当に皆さんにはご迷惑とご苦勞をおかけしました。心苦しい毎日でしたが、今となっては、当時の皆さんの努力に心から感謝しています。

それ以来ではないのですが、私は施設の開設の担当と閉所時の担当を7回くらいやらせていただきましたが、その都度、担当されていたときの皆さんの苦勞がダブってまいります。

私にとっての、ながみねファミリーセンターは、①入会した時初めてできた「希望のセンター」②多くの苦勞を共にした人たちとの思い出の場所③自分にとってのYMCA の原

風景のひとつ。となりました。これからも、世界を見つめ地域に生きるながみねファミリーセンターが、多くのお支えによって継続され、語り継がれるレジェンドを増やしていけるようにお祈りしています。多くのスタッフが好んでいた、阿蘇YMCAにある聖句で終わりいたします。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」

(テサロニケの信徒への手紙5章16節~18節)